

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H31.2.1 No.34
文責 林田

☺ 帰りのあいさつは“See you!” ☺

大草小の子どもたちは、下校時、それぞれの教室で帰りのあいさつをした後、必ず職員室と校長室の入口で、先生方に“See you!”と元気よくあいさつをして帰ります。1年生も上級生と同じように“See you!”と言います。

ところが、1年生の6名、大変個性派ぞろいで、にっこり笑顔の子がいるかと思うと、敬礼のようにジェスチャーをする子、芸人のようにひょうきんな顔をする子、身振りでパントマイムのような動きをする子…など様々です。入口に一番近い場所にいる事務職員は、毎回対応に大忙し?(笑いで仕事にならない?)の状態です。☺

通常の学校では、事務職員が児童の指導にあたることは少ないと思いますが、本校では、児童数が少ない分、すべての職員が(用務員や配膳員まで)一人一人を理解し、楽しく学校生活を送ることができるように心を配っています。これは、「小規模校ならではの良さ」だと常々感じているところです。

先日、保護者の方から、「うちの子は、学校が楽しくてたまらないようです。」という嬉しいお話を伺いました。学校で働く私たちにとって、何より嬉しい一言でした。

これからも、28名すべての子が「学校が楽しい。」と言ってくれる「常笑大草!」めざして、職員一丸となって指導にあたります。



☺ どの子ども「楽しい」と思える学校にするために ☺

どの子ども毎日笑顔で過ごせることは、私たち職員の願いであるとともに努力目標でもあります。私たちは、「子ども」という成長の途中にいる人々を相手に仕事をしています。「成長の途中」ということは、言い換えると、「自分ではまだできないことがあるので、周囲のサポートが必要」だということです。

例えば、朝から暗い表情で登校した子がいたとします。当然、私たちは、「どうしたの?」と声をかけます。高学年の子であれば、自分の気持ちを言葉で伝えることができるかもしれませんが、低学年の子の中には、うまく自分の状況や気持ちを言葉で伝えることができない子もいます。

そういう時に、保護者の方から「今日は、朝から腹痛がしているようで…」とか、「昨日、お友達と喧嘩をしたことが気になっているようで…」などご連絡をいただくと状況を把握することができ、それに合った対応ができます。この「保護者からの一言」等が「周囲のサポート」にあたります。情報を共有することは、子どもたちの指導だけでなく、「笑顔」とひいては「命」を守る上でとても大切です。

子どもたちが成長するに従って、このような「サポート」がだんだん要らなくなります。そして、最終的には「自立」の道を進んでいきます。



☺ 実は、私たち大人も成長?途中 ☺

子どもたちだけではなく、実は私たち大人も「成長?途中」と言えるかもしれません。子どもと異なるのは、「自分で解決方法を探そうと努力することができる」という点でしょうか。子どもたちよりも多くの経験を積み重ねている分、新しいこと・困ったことなどにぶつかったとき、経験の中から解決できそうな方法を探することができます。そして、方法が見つからないときは、「調べる」

「他の人に相談する」などの手段をとることができます。

また、他の人とのかかわりの中から学ぶこともたくさんありますね。私たちは、子どもや保護者の方と接することで「なるほど」と感じる事がよくあります。心のアンテナを広げて、日々成長しながら過ごしていきたいものです。

